

## 序 文

長崎大学公開講座叢書は、昭和60年1月に第1集「不況下の企業経営」が発行されて以来、今回で第11集になります。今回の主題は「地域創造と大学」で序章に始まって、18章にまとめられています。

創造とは新しく作り出すことであり、現実には存在しているものを改造するものではありません。わが国が21世紀を生きるための目標は科学技術創造立国と言われるように新しい科学、技術を創出することによって世界に貢献しようとするものであります。本書には、地域の生涯学習、教育、芸術、スポーツ、産業、交通、都市構造、災害などソフト、ハード面の課題について、長崎の発展のために新たな展開と創造を求めて提言を頂いています。また、自然災害、原爆被災のような負の遺産についても、地域の発展や人類の福祉に役立てるべく発想を転換して行く姿勢が見えます。

長崎は鎖国時代においても、外国との交流の窓口として、西洋や中国の文化、科学を取り入れてきました。そして長崎人は外国の学問を貪欲に吸収しながら長崎独特のものを創出してきました。その後の長崎の歴史には幾多の変遷はあるものの底流にある外の世界からの人や物の流入に対する寛容さは変わらないように思います。しかし、今後は外界からの人や物の受入れに寛容であるばかりでなく、長崎から外へ向けて情報を発信することが重要であります。21世紀をわが国が生きる道は、世界への知的貢献であります。長崎大学が国際的に通用する知的産物を自ら創造し、情報として世界に発信するためには、大学の教育研究の水準を格段に向上させ維持する必要があります。

本書は、長崎大学が地域創造を求めて展開してきた多面的な教育研究の一端を地域からの情報発信としてまとめたものです。本書が地域の発展の一翼を担う役割をもつ大学のあり方を示す例として、広く世に役立つことを祈っています。

終わりにあたり、本書の企画にあたられた生涯学習教育研究センター運営委員会と、執筆下さった方々へ心からの敬意を表すと共に、刊行にご尽力頂いた大蔵省印刷局へ深く感謝いたします。

平成11年2月

長崎大学長 池 田 高 良